



富山市教育センターだより
第39号

平成30年3月23日
富山市八人町5-17
TEL 076-431-4404
<http://www.tym.ed.jp/c10>

- 学校教育課発
- 教育センター発
- 学校・園紹介

(題字「道」明瀬 正則)

「特別の教科 道徳」

富山市教育委員会 学校教育課長 高木 健吉

私は、学級担任をしているとき、道徳の授業が大変苦手でした。しかし、市教委から道徳の内地留学に行く機会をもらったことをきっかけとして、道徳の授業が大好きになりました。最初にこの内留の話を当時の校長先生から聞いたときは、思わず「えー、道徳ですか？できれば教科がよいのですが…」と答えてしまったのですが、校長先生は、「教科は確かに大切だ。しかし、これからは道徳の時代だ。道徳についてしっかり勉強してきなさい」と言われました。これが、私の大きな転機でした。

内留先では、元文部省教科調査官の横山利弘教授に指導を受けました。この先見性のある校長先生と横山教授との出会いがなければ、ずっと道徳が嫌いで、大の苦手のままだったと思うので、お二人には本当に感謝しています。

ここでは、そのときに学んだ道徳の授業のポイントを三つ紹介したいと思います。

一つ目は、子どもが考えやすい発問を準備することです。よく「主人公の気持ちはどうだったのでしょうか」という発問が見られます。しかし、横山教授からは、「気持ちばかり聞いていると、子どもは気持ち悪くなる。子どもが考えやすいような発問をすることが大事だ」と言われたことがあります。

例えば、気持ちを聞きたい場面では、「主人公は心の中で何と言っていたのでしょうか」とすればどうでしょう。かつて、このように発問したところ、子どもから「先生、言い方変わったね。これ

だったら考えやすいわ」と言われたことがありました。

二つ目は、教師が、道徳的価値について深く理解しておくことです。子どもは、「友情」や「思いやり」、「きまり」などが大切だということくらい既に知っています。したがって、授業では、教師が価値について、子どもの知っている以上のことを話してやれるかどうか重要となります。教師自身が、価値について子どもたちより深く理解していないと深い学びにはならないのです。

三つ目は、どんな子どもを育てたいのか理解しておくことです。もちろん、学習指導要領に目標として記載してありますが、簡単に言えば、「粋な振舞い」ができる子どもを育てたいわけです。例えば、江戸しぐさにもあるように、「雨の日に狭い道で人とすれ違う際に、互いの傘を外側に傾け、濡れないようにする」など、相手をさりげなく思いやるような振舞いができる人になってほしいわけです。

以上、授業のポイントを三つ紹介しましたが、参考にしていただけたら幸いです。

道徳の授業では、「難しいことを易しく」「易しいことを深く」「深いことを楽しく」考えることが大切です。学習指導要領が変わり、道徳が教科となっても、根本が変わるわけではありません。大事なものは、教師も子どもたちと共に考え、楽しむというスタンスで臨むことです。

ぜひ、道徳の授業を楽しみ、「粋な振舞い」ができる子どもを育てていこうではありませんか。